

# 第2学年 国語科学習指導案

## 1 教材名

6 いにしへの心を訪ねる 「仁和寺にある法師」

## 2 単元の見どころ

- (1) 古典作品には、さまざまな立場や考え方が描かれていることを知り、自分の考えを深めたり広げたり深めたりすることができる。(知識・技能)
- (2) 複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。(思考力・判断力・表現力)
- (3) 積極的に現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を説明しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

## 3 単元構想の意図

古典作品には、言葉の響きの美しさや古語の現代語と異なる意味の面白さがあり、その性質から暗唱の教材になることが多い。そのため、生徒にとっては、小学生の頃から耳慣れている作品もある。しかし、中学校では暗唱にとどまらず、歴史的な背景を知り、先人の考えを読み解き、現代を生きる自分たちと比較しながら読むことが求められる。しかし、古語や文法などの知識を要する読解に対して苦手意識が高く、古典作品を学習する意義に触れる前に、嫌いになってしまう生徒も多い。

1年時には、「今に生きる言葉」で、中国故事が現代の私たちの生活にも通じていることを学習した。2年生ではすでに「枕草子」の学習を終え、清少納言が日常生活の中で感じたことを綴り、自分の生活を振り返って「オリジナル枕草子」を書き、交流した。この単元では、平家物語や徒然草、漢詩の世界に触れる。特に、「徒然草」では序段と「仁和寺にある法師」、平家物語では「扇の的」「弓流し」など、取り上げられているのは作品の中でも特に有名なエピソードであり、作品に親しみやすいと考えられる。しかし、資料集等でほかの章段や場面を併せて学習することで、より多面的に古典作品のおもしろさや登場人物、ひいては作者の人物像を捉えることができる。また、書くことや伝えることが苦手な生徒でも、自分が見つけたおもしろさや気づいたことなどを「伝えたい」「聞くことや聞いてもらうことが楽しい」という思いを引き出すことにつなげたい。

## 4 単元の計画

時	場面	学習活動（夢中に学んでいる姿）	資質・能力
1	見通す 習得する	現代語訳や注釈をもとに古文を読み「仁和寺にある法師」の行動について兼好法師がどのように考えたかを読み取る。	積極的に現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読み、作品に表れた、登場人物や作者のものの見方や考え方を説明することができる。(主)
2	考える 対話する	「徒然草」の他の段を読み、登場人物の言動の意味などについて考えたりし、作者の人物像を書く。	複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、登場人物の言動の意味などについて考えたりして、内容を解釈することができる。(思・表)
3 本時	考える 対話する	2時間目で読解した資料を持ち寄って情報交換をし、より適した表現で作者の人物像を書く。	複数の情報を整理しながら適切な情報を得たり、作者の言葉に込められた意味などについて考えたりすることで、作者の人物像を捉えることができる。(思・表)
4	振り返る	書き方を真似た「オリジナル徒然草」を書くことで、「徒然草」の特徴を体感する。	古典作品には、さまざまな立場や考え方が描かれていることを知り、自分の考えを深めたり広げたり深めたりすることができる。(知・技)



単元を通して育成したい子供の姿

古典作品を読解し気づいたことや疑問などを伝え合うことにより、複数の資料から多面的に物事を捉えようとする姿。

## 5 本時のねらい

エピソードに添えられた作者の考えを比較して読むことで、作者の人物像を多面的に捉えて自分の言葉で説明することができる。

## 6 学習過程

	学習活動・内容（T主な発問・C生徒の反応）	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
課題設定	1 本時の学習課題を捉える。 (1) 自分のエンジョイシートの感想欄を班で共有する。 (2) 本時の課題を把握する。 兼好法師は、どのような人物と言えるだろうか。	5 一 斉	○ 前時に気付いたこと声に出して言わせることで本時のめあてにつなげることを意識させる。 ○ 前時に分析した資料を持ち寄り、まとめとして人物像を書くことを確認する。
課題解決	2 資料の分析をした結果を持ち寄り、情報交換する。 C「『少しのことにも……』と言っている。このエピソードではしっかりと目的を達成するには、現状に合わせて人に頼ることが必要だと考えているのではないか。」 C「同じ話からだけど、同情していないように見えて、気の毒に思っているように感じました。気の毒な人を減らすために書いたのかもよ。」 3 人物像を書く。 4 読み合い、アドバイスし合う。	10 小 集 団  15 個 人  7 個	◎ 前時に分析したことや生まれた疑問を共有するよう指示する。 ◎ たくさんの考えを出し合うことでその言葉がまとめに生きることで、できるだけたくさんの根拠を挙げることができるよう付箋紙を使って支援する。 ○ 性格や考えを表す言葉を赤丸で囲ませ、個人で書くときに参考にできるようにする。  ○ 表を利用して、根拠（手がかりとした表現）と、解釈を明らかにして書かせる。 ◇ 複数の情報を整理しながら正確な情報を得たり、作者の言葉に込められた意味などについて考え、人物像を書くことができる。（ワークシート） ○ 「人物像」の形で書かれていること ○ 直したい部分は青で加除訂正させる。
振り返り	5 本時のまとめをする。 まとめ（例） (例1) 兼好法師は、より良い結果を導くにはどうすれば良かったのか、この作品を読んだ人に気付いたことを教えてあげたい親切な人物である。 (例2) 兼好法師は、見聞きした話を書いておいて、読んだ人が今後に生かしてくれたらいいなと考えている優しい人物である。	8 一 斉	○ 生徒が使った表現でまとめる。 ○ 指名し、タブレットで写真に撮らせて全体で共有する。
	6 エンジョイシートを記入する。	5 個	

## 7 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;">         スクリーン用に空けておく。       </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p style="text-align: right;">徒然草 霜月二日（火）</p> <p style="text-align: right;">◎ 兼好法師は、どのような人物と言えるだろうか。</p> <p style="text-align: right;">◎ こういう内容を書いている</p> <p style="text-align: right;">◎ こういう表現で書いている</p> <p style="text-align: right;">← だから</p> <p style="text-align: right;">こういう人物だと言える。</p> </div>
---	--